

# CFRTP成形技術に注力

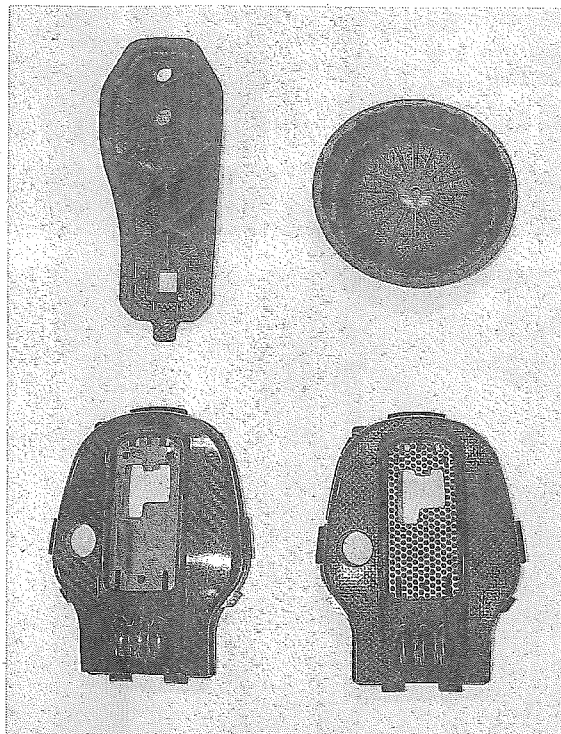
## 自動車量産適用の流れに対応

### 金属との一体成形など研究開発

浅野

自動車メーカーの製品開発などをサポートする浅野(伊勢崎市三和町2718-1、浅野誠社長)は、炭素繊維強化熱可塑性プラスチック(CFRTP)成形技術の研究開発に力を入れている。CFRTPのハイブリッド成形技術や、CFRTPと金属の一体成型技術の研究開発を進め、

自動車業界で進む量産車へのCFRTP適用の流れに対応していく方針。CFRTPは、従来の炭素繊維強化プラスチック(CFRP)と同じく軽量・高強度で、より量産性に優れ、低コストという特徴を持ち、次世代の量産車への適用に期待が高まっている。同社のCFRTP成形技術の研究開発は、11年



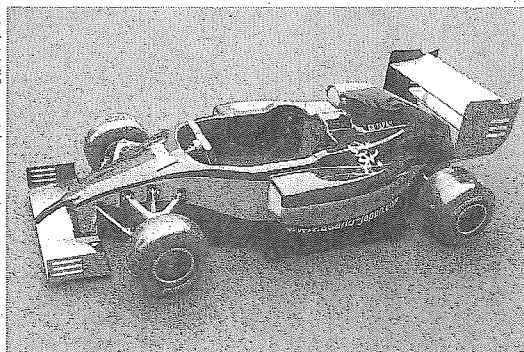
ハイブリッド成形技術などで試作した自動車部品

度には県産業技術センターの公募型共同研究事業(次世代産業推進研究)からスタート。12年度から14年度は国の戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン事業)で県・群馬高専などと共同研究を行った。今後、自動車メーカーや部品メーカーとの協働も視野に入

れて、実用化を目指す。具体的には常温金型、温調金型を用いた成形技術の時間短縮やCFRTP部品の形状の複雑化、複数の異なる成形技術を用いた複合工程に組み合わせられたハイブリッド成形技術、自動車用構造部品向けのCFRTPと金属の一体成形技術、電磁誘導加熱システムによるヒート&クール・ハイサイクル成形技術の開発などを進めている。

技術開発部の中村仁部長は「複数に分かれている部品を一体化し、最初から一つの部品として生産できれば、総部品点数が減り、自動車の生産性向上につながる。メーカーの効率的な生産体制構築に寄与できるよう、必要な技術・ノウハウの蓄積に努めたい」と話している。

同社は自動車部品の試作支援・製造を通して培った技術で、大手メーカーから発注された年間1万種類以上の開発部品や量産部品の製作、リバーシエンジン、アリングなどを手掛けている。自動車、バイクをはじめ、航空機、電気の開発支援を行っている。



CFRTPを利用して製作したミニF1

(久間田貴志)